

図書館報

第四号

昭和三十一年四月一日発行
発行所 福岡市西新町
西南学院図書館

編集人 山下 和夫

新入学生に与う

館長 里見 安吉

大学へ入つた以上は新しい気がま
えが必要だ。同じ年月の間に精神的
な糧を充分にこなして身につけるこ
とが出来たかどうかは後になつて諸
君の生涯を左右することになる。

肥沃な土壌には草木はよくのびる。
しかし吸収力のない場合は、どんな
に土壌がよくとも成長は思わしくな
い。新しい気がまえが必要だと私が
いうのは、充分に栄養を取ろうとす
る諸君自身の内にある吸収力の必要
をいうのである。あてがわれたもの
をただ受けとるばかりでなく、自分
から進んで探求しようとする活動が
盛におこらなければ学問の進歩はな
い。

そのような要求を満たすために図
書館は諸君に出来るだけの便宜を与
える。

高めることになる。この意味で全国
の図書館の模範となるように協力し
てほしい。

図書を大切に扱つて紛失や切
りぬきや書き込みなど迷惑なことを
絶対に起さぬように、また静肅な読
書のフン囲気を乱さぬように充分に
心がけてもらいたい。

「真理は諸君に自由を与える」
諸君のために図書館は開放されて
いる。

図書館ニユース

○ 十二月十六日、福岡女子大学で
二月一日、久留米大学商学部で何
れも福岡県大学図書館協議会が開
かれ、カード目録排列規則につい
ての研究が行われた。

○ かねて九大図書館司書官として
西日本図書館学会や福岡県大学図
書館協議会の発展にも尽力されて
きた岩嶺敏生氏が新年度から母校
京都大学の図書館事務長に栄転さ
れることとなつた。心よりお喜び
申し上げると共に同氏の今後の活
躍を祈つてやまない。

文芸欄

俳句の一つの在り方

について

伊藤 冷生

俳句にはすでに御承知のように、
二大約束がある。一つは形式が五七
五の十七音を基準とするという事と
季節を表はす語を入れる即ち季節感
なければいけないということである
ではこの二つが守られていればそれ
でよいかといえは、そうは言えない
のであつて、俳句も詩の一種である
ので、新鮮な内容が必要であると共
に、又表現或は描写が、新しいかど
うかということも、必要となるので
ある。内容が新しく、表現もそれに
相応して新鮮であれば、上乘である
が、この「新しい表現の仕方」はな
かなか困難であるが、内容の方は対
象を忠実に写生する事によつて、比
較的得易いのではないかと思う。

この対象を何にとるかということ
で今日では私達の身近な日常生活に
対象を求め、生活俳句の傾向が現
われている。この事は、現代人のノ
イローゼ気味な焦燥感から、じつと
り自然を観察しようとしないうで、唯

(次頁下段へ)

科学技術について

台信 達二

原子力を両輪にした「技術の世紀」とした方がより適切のようである。科学技術と一口に言うが、常識的に「科学」の応用が「技術」と理解される。然し科学はその当時の技術を基盤として発達する。

百年を単位とする世紀を特色づけるのに、一言で形容する言葉がいくつかある。例えば十七世紀は「天才の時代」(ホワイトヘッド)と呼ばれ、十八世紀は「商業の世紀」(エンゲルス)とか「哲学の世紀」(ダランベール)或いは「理性の世紀」(美術や文学に傑作に比較的少ない)

「人間は道具を創る動物である」というのはフランクリンの有名な言葉であるが、この「道具」は古代では技術そのものを意味する。

十九世紀は「その以前のどの時代とくらべてもあらゆる点で格段の進歩をした時代であるが、これは近代資本主義工業の原動機としての蒸気機関が一役かっているので「蒸気の世紀」と呼ばれる。

人類が火の発見をしたのは数万年前のこととされているが、これは人類の生活における非常に重要な事件であった。原子核エネルギーの人為的解放は一九四二年十二月であつたが、これこそ人類の第二の火の発見と呼ばれるにふさわしく、将来の発達を約束されている。十年以内日本でも原子力発電が実現すると考えられる。然し、こんな平和的利用の外に「原子病」や「死の灰」のいや

我々が現に生活している二十世紀は普通「電気の世界」と呼ばれている。家庭電化の進歩も目覚ましいのであるが、半世紀のすんだ今日、二十世紀を表現するのに、電気だけでは一寸不足のようである。「政治の世紀」といわれることもあるようであるが、十九世紀の「科学の世紀」と

な思ひ出のつきまとう原水爆競争はげしく行われていることも忘れることは出来ない。ライブニッツやカントは、一切の科学は人間の幸福をその目的としていると考えたが、科学自身は、両刃の剣である。正しく使えば非常に有用であるが、人間の愚かしさは、その

しばしばであつた。例えば最終兵器とさわがれている水爆や大陸間誘導弾等は間違えば人類の破滅さえも招きかねない。科学技術の正しい使途を決定するのは、科学技術自身ではなく、むしろ人間の良識の問題である。

我々は科学技術とのかかわりなくして一日も過すことの出来ない現在学生諸君が各自の専攻学科との関連において各自の科学技術観を形成されることを希望したい。それには、哲学から入つて行かれてもよいし、宗教から或いは経済学から、又科学(思想)史からでもよいと思う。

本学図書館には、諸君の期待にこたえてくれるだけの図書があるし、又購入していく筈である。御利用をおすすめする。具体的な本のリストは他日の機会を待ちたい。

(筆者は本学助教)

「声」文芸欄投稿募集

「声」の欄の他に「文芸欄」を新しく設けました。皆さんの優れた原稿をお待ちしています。

- 一、字数 五百字前後
- 一、期限 次回は七月三十日迄
- 一、学部番号氏名明記のこと

山下記

(前頁下段より)

眼前のものをいらいらと見るところから、又自然は余りにも深遠であり取りつきにくい存在であるところから、そうした対象を逃避して安易に取りつき易い人事句に走る傾向が、出てくるのではないかということも考えられる。又現実においても、これからの生活者は、殊に都会人は、日毎に自然から遮断されて季物を失つてゆく、ただ寒暖のみからわずかに季節を感ずるということになる。従つて人事や社会事象が、多くとり上げられ、それに向つて積極的になるのは当り前でもあり、そうした面で、今までにないものが拓かれていくのは好ましい。しかし更に一歩出て、自然物に接し、親しむ半面がなければ俳句作者としての使命は充分に果されないのではないか。

私の師である皆吉爽雨先生も、風景描写の中にこそ、どんな人事句にも負けない動きと面白さがあるということを強く主張していられる。私も又これが俳句の正道であると思つている。しかし一歩出れば、自然のすばらしい美しさ、巧妙さがあるということ、とかく忘れがちである

春泥のままに道折れ道細り

(次頁下段へ)

図書館案内講座

その三

図書館の利用法について

当館は開架式を採用していますので自由に書架に入り、自由に図書を手にすることが出来ます。又目録には、分類カード、書名カード、著者名カードがあり、これによつて検索し、書庫に収めてある図書は係員に申し出て出してもらいます。しかし此等の方法は一般的に行われていることで概してそれ以上の範囲を出てないようです。ここで新入生を迎える機会に図書の利用法について簡単に説明してみたいと思います。

まず本を探す前に「どんな事をする程度知りたいか」ということをはつきりさせる必要があります。この事が明確でないとどんなに資料が揃つていても時間を無駄にする例が少なくないのです。例えば百科辞典を使

用する場合は、アメリカカーナ (Columbia Encyclopedia) で簡単に済ませる問題ならば何もブリタニカ (Encyclopedia Britannica) の長い論文を必要としないのです。

又或る人名を調べる場合普通は人名辞典を使いますが、それが文学者である事が分つている場合は世界文学辞典を引けば文学者としての説明が詳しく、人名辞典であれば依記そのものに重点が置かれています。このように「どんな事をどの程度知りたいか」によつて利用の仕方が異つて来ます。それぞれ特色ある書物の内容と、適当な利用のテクニクを早く心得る事が有益だと思われ、ここに「一つのテーマを与えられ、レポートなり論文なりを作成する場合を考へてみましょう。まず単行本については先にも説明しましたがそのテーマに関する図書が置かれている書棚だけでなく、新刊棚も探して見ると良いと思います。なお新刊書は和書・洋書別に分類順に配列し、受入後一ヶ月は新刊棚にあります。

辞書。辞典はそれぞれ特色があり単行本に比べて説明が簡単ですが、特定の専門辞典、例えば聖書大辞典等は、それぞれの項目にかなり詳細な説明がなされており、更に参考文

献があげられていて活用される事を探めます。語学の辞典は一定の書棚に纏めず、各閲覧室に常備してあります。又年鑑については特に社会科学関係の論文を書く場合は統計資料を必要とする事が多いのですが、年鑑・年報には新しい一年の記録が載せられ参考資料として重要です。年鑑は辞書と同様、各々特色ある総合年鑑と専門年鑑があり、当館には各新聞社の年鑑の他に特定な統計年鑑や文芸年鑑等を揃えてあります。又雑誌は単行本とともに文献の資料として大きな役割を果しています。専門雑誌は勿論の事、他の一般総合雑誌にも時時論文作成の時などに有益な論文が見られることも少くありません。又一般購入雑誌の他にも各大学の学術論文もあり、記事索引も漸次作成しますから利用して下さい。その他新聞、パンフレット類もあり、そこから奉仕係員に頼めて最大限に利用して下さい。

明るく開放された静かな雰囲気のある態度をもつて新しい学生生活を

高級美術製本
論文・アルバム・金文字
入れ 各種の御注文は
美しい仕上げと良心的な
価格の弊店へどうぞ
福岡市渡辺通四丁目
官沢美術製本所
☎2725 (取次)

D・P・E
カメラ
附属品
フィルム
映写機
西南学院御指定
カメラの岩崎
西新町電停前 ☎3696

(前頁下段より)
病み勝ちの袖口白く火桶に来
ボタ山の裾にそつ々き海苔の浦
神われに職給ふ夜のバラ匂ふ
伊藤 治生

図書館閲覧規則

改正さる

本館の閲覧規則は接架式採用以後も旧規則の儘で暫定的な措置を講じながら運用されて来たが、不便な点も多く此度一部改正を行った。

新規規則は接架式閲覧にそつて出来たもので大体現在迄行つてきた暫定的な措置がそのまま規則におりこまれたものとみてよい。職員・学生の閲覧及び帯出には今迄と何ら変化はないが改正点の主なものに列挙してみよう。

○開館時間はこれ迄午前九時からとなつていたがこれを午前八時半からとした。

○新しく設けられた規則として「閲覧室内備付の図書は自由に取出して閲覧することができる」「学院の学生及び生徒は学生証又は身分証明書を受付に提出して入館できる」等があるが何れも接架式図書館としての原則をうたつたものであり、現在迄実際に行われてきているところと何ら変化はない。

○更に一つ是非利用者の協力をお願いしたいことは、図書を大切に扱つ

て戴きたいということである。最近図書及び雑誌の破損が激しくいくら製本修理しても追いつかない状態である。皆さんお互いの研究資料ですから是非御協力下さい。

図書館学研究論文の募集

募集

日本図書館学会では今回次のような要領で図書館研究論文を募集している。

1. 図書館研究論文を募集する。

締切 七月末日

題及び長さ自由

図書館雑誌八月号に発表

2. 応募論文については、日本図書館学会において結成した審査委員会において審査する。

3. 入選者は大体二十名見当とし、

一名五千円の賞金を与える。

4. 賞金を受けた入選者は十月九日

十日、広島大学で開かれる学会総

会において発表の義務を負う。こ

れに要する経費は別に支給する。

有志の方は振つて応募されたい。

英文学関係外国雑誌到着案内 (新購入分)

本館では英文学関係の雑誌を次の通り購入しているから希望者は利用されたい。

- American Journal of Philology (A) Quarterly
- American Literature (A) Q. American Scholar (A) Q.
- Anglia mit Beihefte (G)
- College English with English Journal (A) 17 mos.
- Columbia Univ. Press American Speech (A) Q.
- Encounter (E) Monthly
- English Literary History (A) Q.
- Essays in Criticism (E) Q.
- Kenyon Review (A) Q.
- Listener (E) Weekly
- Modern Language Forum (A) Q.
- Modern Language Notes (A) 8 mos.
- New York Times Book Review (A) Weekly
- Perspective U.S.A. (Eng.ed) (A) Monthly
- Philological Quarterly (A) Q.
- Poetry (A) Monthly Sewanee Review (A) Q.
- Review of English Studies (E) Q.
- Section of Literature and Language (CCCCP) BM
- Yale Literary Magazine (A) 6 mos.

編集後記

ここでは編集の拙劣さ

をお詫びするのが常例に

なつてしまつた。此度も

この例に洩れず心から恥

じている。唯、欠木調査

や圖書の塵払い其他非常

な多忙にも拘らず新入学

を迎えるのに間に合つ

たことはせめてもの慰め

である。

図書館の周囲に樹木や

芝生が植えられ、フン冊

気、外観も一段とすばら

しいものとなつてきた。

学院当局の御尽力を感謝

している。

(山下記)